

令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立御幸が原小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和7年4月17日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問調査）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問調査）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	61人	算数	61人	理科	61人
第5学年	国語	62人	算数	62人	理科	62人

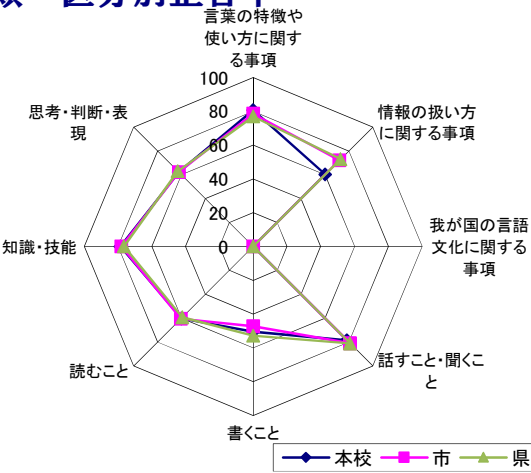
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立御幸が原小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	80.7	78.6	76.9
	情報の扱いに関する事項	60.3	72.2	73.1
	我が国の言語文化に関する事項	0.0	0.0	0.0
	話すこと・聞くこと	78.5	81.0	81.1
	書くこと	50.4	47.2	52.8
	読むこと	60.1	60.5	59.3
観点	知識・技能	78.6	78.0	76.5
	思考・判断・表現	62.3	62.3	63.1



★指導の工夫と改善

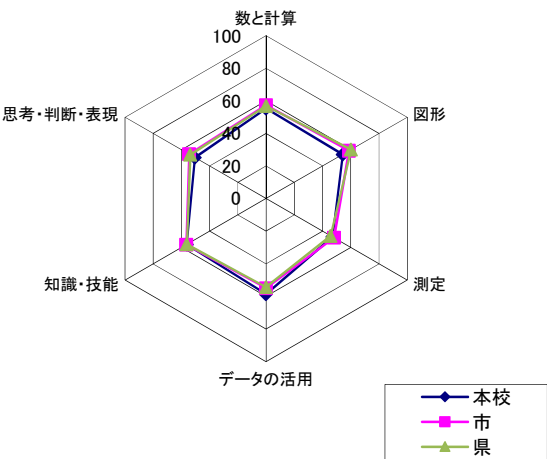
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	平均正答率は、市の平均を2.1ポイント上回った。 ○漢字を正しく書く問題では、全ての問題で、平均正答率が、市の平均を上回った。日々の漢字の学習の成果が表れていると考えられる。 ○主語と述語の関係を捉える問題では、市の平均正答率を12.3ポイント上回った。 ●ローマ字を正しく読む問題では、市の平均正答率を9.2ポイント下回った。	・引き続き、小テストや漢字オリンピックを活用し、漢字の学習に主体的に取り組ませることで、漢字の力の定着を図る。 ・今後も、主語と述語などの文の要素を意識して文章を読む指導を行い、文の構成についての理解を深める。 ・パソコンへのローマ字入力の指導を継続して行うとともに、ローマ字特有の記述の仕方を繰り返し練習させ、ローマ字表記の理解を深める。
情報の扱いに関する事項	平均正答率は、市の平均を11.9ポイント下回った。 ●国語辞典に載っている順番を選ぶ問題では、市の平均正答率を11.9ポイント下回った。	・国語辞典を使って、言葉を調べる機会を設定し、国語辞典の引き方や表記の仕方の理解を深める。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市の平均を2.5ポイント下回った。 ○自分の考えを理由を挙げながらまとめる問題では、市の平均正答率を3.7ポイント上回った。根拠を示しながら、自分の考えを伝える力が伸びてきていると考えられる。 ●司会者の話し方の工夫を捉える問題は、平均正答率が67.2%で、市の平均を13.9ポイント下回った。	・授業や朝の会を通して全体の前で話す機会を増やし、自分の考えを分かりやすく伝える力を伸ばしていく。 ・グループや全体での話し合いの中で、司会の役割を多く経験させることで、司会の話し方のスキルを身につけさせる。
書くこと	平均正答率は、市の平均を3.2ポイント上回った。 ○理由や事例を明確にして、自分の考えを書く問題では、市の平均正答率を4.9ポイント上回っており、無回答率も市の平均を12.2ポイント下回った。	・授業や朝の学習の時間等を通して、指定された長さや構成の文章を書く機会を増やし、条件に合わせて自分の考えを書く力を育成していく。
読むこと	平均正答率は、市の平均を0.4ポイント下回った。 ○叙述をもとに指示語の内容を捉える問題では、市の平均正答率を9.8ポイント上回った。 ●叙述をもとに、登場人物の気持ちを捉える問題では、市の平均正答率を8.9ポイント下回った。	・文章の内容を正確に捉える力が伸びてきているので、今後も様々な説明文に触れさせ、指示語を意識して読ませることで、内容を把握する力の向上を図る。 ・授業や読書の時間を通して、様々な物語に触れる機会を増やし、場面の様子や登場人物の行動の要因を考える学習を重ね、叙述をもとに人物の気持ちを読み取る力の向上を図る。

宇都宮市立御幸が原小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	55.3	57.4	56.9
	図形	54.3	58.7	60.1
	測定	47.0	48.1	45.7
	データの活用	58.6	54.9	54.3
観点	知識・技能	56.3	56.6	56.2
	思考・判断・表現	50.4	54.5	53.8



★指導の工夫と改善

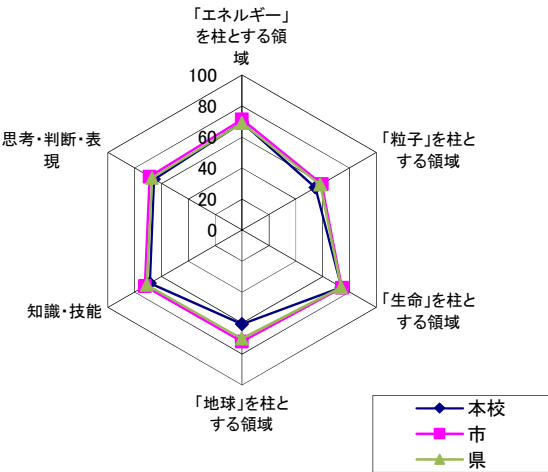
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市の平均を2.1ポイント下回った。 ○数直線で、目盛りが表す大きさを分数で答える問題では、市の平均正答率を3.2ポイント上回った。 ○2けた×1けた＝3けたになる計算の正答率は89.7%で、市の平均を8.5ポイント上回った。 ●式の意味を言葉で説明したものについて、正しいものを選ぶ問題では、市の平均正答率を9.7ポイント下回った。	・文章から数のまとまりを理解できるように、図や絵を活用して、イメージをもたせるようにする。それをさらに、言葉で表現できるようにする。 ・文章問題を反復練習することで、計算方法を身につけさせる。
図形	平均正答率は、市の平均を4.4ポイント下回った。 ○正三角形を作図する問題の正答率は79.3%で、市の平均を1.4ポイント上回った。 ●箱の横の長さから球の半径を求める問題では、市の平均正答率を8.2ポイント下回った。 ●二等辺三角形になる点を選ぶ問題では、市の平均正答率を12.4ポイント下回った。	・球の半径や直径について確認し、しきつめ問題等の応用問題にも取り組ませていく。 ・二等辺三角形の定義、性質や描き方を確認した上で、実際に紙を使って、折ったり切ったりする活動の機会を設け、図形の感覚を育てていく。
測定	平均正答率は、市の平均を1.1ポイント下回った。 ○単位をそろえて2つの道のりの和を比べ、どちらの方が短い説明する問題では、市の平均正答率を1.9ポイント上回った。 ○時間が経過する前の時刻を求める問題の正答率は58.6%で、市の平均を1.4ポイント上回った。 ●重さを、基準量のいくつ分で考え、説明する問題では、市の平均正答率を3.0ポイント下回った。	・無回答率が22.4%と高かった。問題文を最後まで丁寧に読み、正しく解答していくよう継続して指導をしていく。 ・様々な測定方法について試行させることで、正確な測定の仕方について理解を深める。
データの活用	平均正答率は、市の平均を3.7ポイント上回った。 ○二次元の表から読み取ることができる、正しい傾向を選ぶ問題の正答率は65.5%で、市の平均を5.4ポイント上回った。 ○目的に合わせて選んだ棒グラフが適切である理由を選ぶ問題では、市の平均正答率を4.9ポイント上回った。	・棒グラフの特徴や利点を生かし身の回りで活用する機会を設け、理解を深めていくようにする。

宇都宮市立御幸が原小学校 第4学年【理科】 分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	69.4	71.4	69.1
	「粒子」を柱とする領域	54.7	59.3	58.3
	「生命」を柱とする領域	73.9	74.5	73.8
	「地球」を柱とする領域	60.8	72.0	70.1
観点	知識・技能	68.7	72.5	70.9
	思考・判断・表現	65.6	68.8	67.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均を2.0ポイント下回った。 ○輪ゴムの数と車が動いた距離の関係を適切に表したグラフを選ぶ問題の正答率は67.2%で、市の平均を10.6ポイント上回った。 ●電気の通りの名称を答える問題では8.2ポイント、豆電球に明かりがつく回路の組み合わせを選ぶ問題では11.2ポイント、それぞれ市の平均正答率を下回った。 ●磁石につくものの条件について正しく考察できている人物を選択する問題では、市の平均正答率を10.0ポイント下回った。	・電気の通りの道など、実際には目で見えないものについて実験したり、まとめたりしていく際には、言葉だけでなく図を用いて知識を身につけさせたり、理解を深めたりしていく。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均を1.3ポイント下回った。 ○実験結果から同じ体積でも材質の違いで重さが異なることを答える問題では、市の平均正答率を1.0ポイント上回った。 ●重さをそろえた異なる材質のおもりのうち最も体積が大きいものを答える問題では、市の平均正答率を9.1ポイント下回った。	・身の回りのものの特徴をとらえ、それぞれが生活の中でどのように利用されているのかについて考える等、応用的な課題にも取り組んでいく。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均を0.6ポイント下回った。 ○モンシロチョウのたまごと幼虫について適切に説明した文章を選ぶ問題では、市の平均正答率を3.6ポイント上回った。 ○モンシロチョウとトンボの育ち方の違いを記述する問題では、市の平均正答率を2.0ポイント上回った。 ●モンシロチョウとの比較からクモが昆虫といえるかを述べた文章として正しいものを選ぶ問題では、市の平均正答率を8.8ポイント下回った。	・昆虫の育ち方に関する問題の平均正答率が市の平均よりも高い。日頃より校内の自然に触れたり、家庭で昆虫の飼育を行ったりしている結果と思われる。今後も生命を身近な存在に感じられるようにするとともに、生物の観察記録を取るなどして発展的な問題にも対応できるよう指導していく。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均を11.2ポイント下回った。 ●太陽と日陰の位置関係と、日陰ができる方角の組み合わせを選ぶ問題では、市の平均正答率を13.8ポイント下回った。 ●温度計の正しい使い方を答える問題では、市の平均正答率を16.6ポイント下回った。 ●午前と午後に日なたと日陰で地面の温度を調べた結果を適切にまとめた記録を選ぶ問題では、市の平均正答率を10.8ポイント下回った。	・実際に観察したり実験したりすることが難しい内容については、映像資料を活用して学習を補ったり、スマイルネクストドリルに取り組みさせることで理解を深めていけるようにする。

宇都宮市立御幸が原小学校 第4学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○●「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」の肯定回答割合は85.5%、「勉強していて、『不思議だな』『なぜだろう』と感ずることがある」は88.7%で、ともに市の平均を上回っている。また、「むずかしい問題にであうと、よりやる気がある」の肯定的回答割合が66.2%で、市の平均を10.4ポイント上回った。加えて「できるだけ自分一人の力で課題を解決しようとしている」が87.1%となっており、学習に対し興味を持って取り組むと共に、難しい問題にであっても粘り強く自力解決に努めようとしていることが分かる。一方で、「ぎ問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい」の肯定的回答割合は66.2%で、市の平均を4.3ポイント下回った。児童が興味・関心のある内容について調べたり、まとめたりする活動を取り入れることで、探究的な活動のおもしろさや、課題を解決したときの喜びを感じることができるよう指導法を工夫していきたい。

○家庭学習に関しては、「家で、学校の宿題をしている」という質問の肯定的回答割合は93.6%で、真面目に宿題をする習慣が身に付いていると言える。また、「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」は80.6%で、市の平均を8.8ポイント上回っており、自主学習が習慣化されつつあると言える。自主学習に関しては今後も、取り組む内容や方法はもとより、めあてと振り返りを記入するように指導し、学びの連続性を生み出していきたい。

●読書については、平日に授業時間以外で読書をする時間は、10分以上30分未満が25.8%で最も多く、30分以上読書をする児童は全体の27.4%であった。24.2%は全くしないと回答した。1か月に3冊以上読書をするのは62.9%であるが、1冊も読まない児童も12.9%いた。市の平均と比較すると、多くの児童は家庭で読書をする時間が短く、冊数も少ない傾向であると分かる。今後も引き続き、読み聞かせボランティアや学校図書館を活用するなど、司書と連携して読書活動を推進していきたい。

●平日のTV・DVD・動画の視聴時間について、4時間以上と回答した児童が最も多く35.5%であった。また、テレビゲーム（コンピューターゲーム、携帯式ゲーム、スマートフォンを使ったゲーム）についても、32.3%の児童が4時間以上すると回答している。これらから、本校児童の3割以上が、平日に多くの時間をテレビや動画を見たり、ゲームをしたりすることに費やしていることが分かる。時間を計画的に使い、睡眠、宿題、自主学習、読書の時間を十分確保できるよう、家庭と連携しながら指導したい。

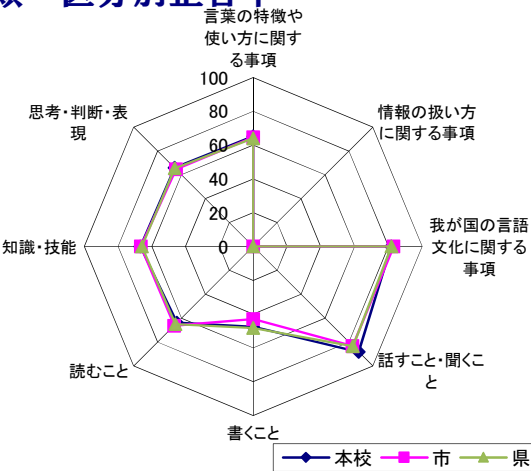
●「自分には、よいところがある」という質問の肯定的回答割合は87.1%、「自分のよさを人のために生かしたい」は90.3%と、それぞれ市の平均を若干下回った。また、「自分はクラスの人の役に立っていると思う」は59.7%で市の平均を9.5ポイント下回っており、当番や係活動を通して、自己有用感も高めていく必要があると感じる。

○「家の人と学習について話をしている」の肯定的回答割合は83.9%、「家の人は、ほめてもらいたいことをほめてくれる」は91.9%、「自分は家族の大切な一員だと思う」は96.8%で、どれも市の平均を上回っている。保護者の温かい支えによって、自分の大切さに気付くとともに安心して過ごすことができている児童が非常に多いことがうかがえる。今後も、家庭との連携を深めながら児童の自己肯定感が高まるような指導に努めていきたい。

宇都宮市立御幸が原小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	65.2	64.7	64.1
	情報の扱い方にに関する事項	0.0	0.0	0.0
	我が国の言語文化にに関する事項	81.7	83.1	81.9
	話すこと・聞くこと	88.3	83.3	83.4
	書くこと	47.5	42.8	48.2
	読むこと	63.8	66.1	65.1
観点	知識・技能	66.8	66.5	65.9
	思考・判断・表現	65.8	64.6	65.5



★指導の工夫と改善

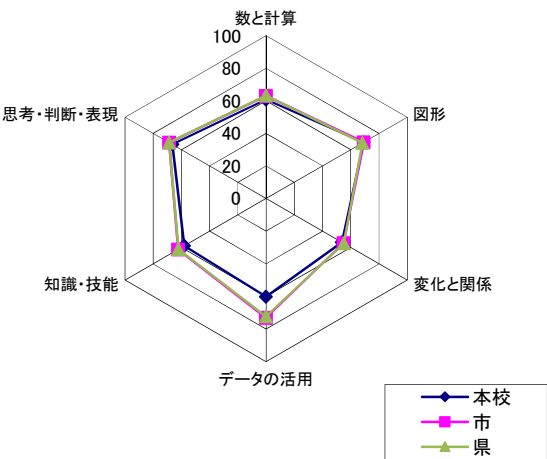
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は、市の平均を0.5ポイント上回った。 ○修飾と被修飾の関係を捉えることができるかどうかをみる問題では、市の平均正答率を7.6ポイント上回った。 ●漢字を正しく書く問題の正答率は、市の平均を6.5～9.2ポイント下回った。 ●気持ちを表す語句の量を増し、文章の中で使うことができるかどうかをみる問題では、市の平均正答率を3.0ポイント下回った。	・漢字は、児童の実態に合わせて、家庭学習に頼らず、授業の中で指導の工夫を図り、漢字の力の定着を図る。 ・日記や作文指導の際には、教科書の巻末にある「言葉の広場」を活用し、人物の気持ちを表す言葉を使いながら文章を書くことができるようにする。
我が国の言語文化にに関する事項	平均正答率は、市の平均を1.4ポイント下回った。 ●ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いることができるかどうかをみる問題では、市の平均正答率を1.4ポイント下回った。	・図書室を利用する際に、慣用句やことわざの本を勧めて紹介したり、授業や家庭学習において、慣用句やことわざを使って短文づくりをしたりして、慣用句やことわざに興味をもったり、語彙を増やしたりすることができるように指導する。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市の平均を5.0ポイント上回った。 ○参加者の発言を基に、司会者の考えをまとめることができるかどうかをみる問題では、市の平均正答率を6.2ポイント上回った。 ○話し手が伝えたいことの中心を捉えることができるかどうかをみる問題では、市の平均正答率を5.3ポイント上回った。	・引き続き、グループでの話し合いや学び合いの中で、友達の意見を受けて自分の考えを深める機会を設けていく。 ・司会者として意見をまとめる経験をさせ、話し手の伝えたいことの中心を捉える力を伸ばしていく。
書くこと	平均正答率は、市の平均を4.7ポイント上回った。 ○内容の中心を明確にし、事実を伝える文章を書くことができるかどうかをみる問題では、市の平均正答率を10.2ポイント上回った。 ○段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書くことができるかどうかをみる問題では、市の平均正答率を3.2ポイント上回った。	・引き続き、文章を書く際には、構成を意識して書いたり、事実を基に自分の考えを書いたりすることを指導していく。
読むこと	平均正答率は、市の平均を2.3ポイント下回った。 ●文章を読んで感じたことや分かったことを共有することができるかどうかをみる問題では、市の平均正答率を7.2ポイント下回った。 ●登場人物の気持ちの変化について、具体的に想像することができるかどうかをみる問題では、市の平均正答率を6.8ポイント下回った。	・叙述を基に、登場人物の性格や気持ちの変化を想像し、それらについて話し合う活動を行いながら、物語の内容や人物の気持ちの変化を理解できるように指導する。 ・図書室の利用を推進し、様々な本に親しむ機会を増やしたり、読んだ本を紹介する活動を取り入れたりして、読解力を高められるようにする。

宇都宮市立御幸が原小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	60.8	63.0	63.3
	図形	69.1	69.2	68.3
	変化と関係	53.7	54.8	55.0
	データの活用	60.2	73.1	72.3
観点	知識・技能	58.0	62.3	62.1
	思考・判断・表現	66.5	68.7	68.7



★指導の工夫と改善

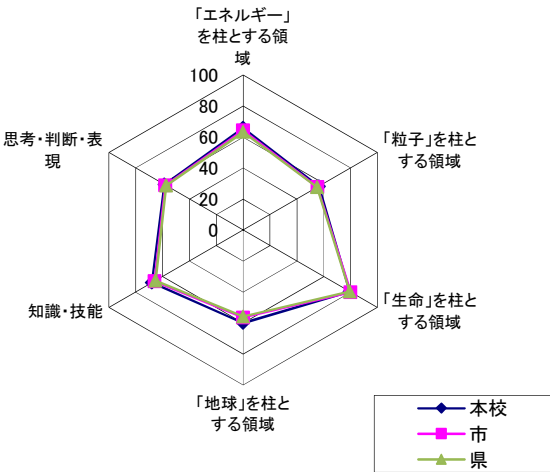
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市の平均を2.2ポイント下回った。 ○式の意味を正しく捉えることができるかどうかの問題では、市の平均正答率を6.7ポイント上回った。 ●分数の計算では、市の平均正答率を6.4ポイント下回り、小数を用いたかけ算やわり算の計算では市の平均正答率を6.6～9.9ポイント下回った。	・基礎基本的な計算の仕方を理解し、計算力を定着させていくため、朝の学習時間などを活用して繰り返し練習し、復習をしていく。 ・授業で計算を扱うときには、その都度丁寧に指導をし、計算方法について理解を深める。 ・宿題が効果的なものになるよう、児童の苦手傾向を把握し、重点的に反復練習をして定着させていく。
図形	平均正答率は、市の平均を0.1ポイント下回った。 ○三角定規を組み合わせてできた角の大きさを求める式を選ぶ問題では、市の平均正答率を5.0ポイント上回った。 ●ものの位置の表し方を理解し、もとにする位置を考える問題では、市の平均正答率を2.7ポイント下回った。	・デジタル教科書を活用するなど、視覚的に分かりやすい指導を引き続き行い、図形への理解を深めていく。 ・教室内の机や椅子の位置、友達の座席などを例に挙げ、「～の上」「～の下」「～のとなり」など、具体的な言葉を使ってものの位置を表現する練習を繰り返し行い定着を図る。
変化と関係	平均正答率は、市の平均を1.1ポイント下回った。 ○割合を使った長さの求め方を説明する問題では、市の平均正答率を2.3ポイント上回った。 ●表を縦に見て、伴って変わる2つの数量の関係を読み取る問題では、市の平均正答率を4.1ポイント下回った。	・数量関係に関する問題を扱うときは、表の構成を理解させ、縦や横に見ることで何が分かるかを具体的に示し、変化の傾向を捉える練習をする。 ・変化の規則性を見付け、言葉や式で表現する活動を通して、理解を深めていく。
データの活用	平均正答率は、市の平均を12.9ポイント下回った。 ●折れ線グラフと棒グラフの複合グラフから、傾向を読み取る問題では、市の平均正答率を14.5ポイント下回った。 ●二次元の表の空欄にあてはまる数を答える問題で16.7ポイント、二次元の表の空欄がどのような数を表しているかを説明する問題で11.3ポイント、それぞれ市の平均正答率を下回った。	・グラフの傾きや変化の大きさに着目させ、データの傾向を読み取る練習をしていく。 ・算数以外の教科や授業以外の場面でも、目的に即した資料を集めてグラフや表に分類・整理したり、読み取ったりする活動を取り入れ、理解力を深めながらデータを読み取る力の向上を図る。

宇都宮市立御幸が原小学校 第5学年【理科】 分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	65.8	64.3	63.2
	「粒子」を柱とする領域	56.3	55.4	55.1
	「生命」を柱とする領域	79.4	80.1	79.3
	「地球」を柱とする領域	60.0	56.4	55.8
観点	知識・技能	68.0	66.0	65.3
	思考・判断・表現	58.7	57.9	57.4



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均を1.5ポイント上回った。 ○図で示された回路から電流が流れない原因の箇所を選ぶ問題では、市の平均正答率を6.9ポイント上回った。 ●回路の乾電池の向きを入れ替えた際の、簡易検流計の針の振れ方を示して図を選ぶ問題では、市の平均正答率を5.5ポイント下回った。	・めあてを明確にし、仮説を立てて実験を行い、結果をまとめ考察をするという学習の展開を大切にして指導することで、科学的な思考力を高めていく。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均を0.9ポイント上回った。 ○空気でっぽうを使った実験について答える問題では、すべての問題で市の平均正答率を上回った。特に、ピストンを使って閉じ込めた空気を圧した場合の、手ごたえの変化を答える問題では、正答率が95.0%と高かった。 ●金属や水、空気の温まり方について答える問題では、すべての問題で市の平均正答率を下回った。特に、温められた空気の動き方を答える問題は正答率が33.3%と低く、市の平均を5.3ポイント下回っている。	・金属、水及び空気の性質についての見方や考え方を身につけることができるよう、温度の変化と金属、水及び空気の温まり方と体積の変化を関係付けて指導していく。 ・身近な生活での出来事と合わせて考えられるように指導し、発表させることで理解を深めていけるようにする。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均を0.7ポイント下回った。 ○人の手や腕の骨と鳥の翼の骨について、骨の数に着目して差異を答える問題では、市の平均正答率を3.7ポイント上回った。 ●骨のはたらきを説明した文章をすべて選ぶ問題では、市の平均正答率を4.5ポイント下回った。	・校庭や中庭にある植物の観察等を積極的に取り入れるとともに、生物の飼育体験やそれに伴う調べ学習等を行うことによって、知識の定着を図る。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均を3.6ポイント上回った。 ○1日の気温の変化の様子を表したグラフを正しく読み取る問題では、市の平均正答率を8.7ポイント上回った。 ●実験結果から水たまりのできにくい地面を選び、その理由について答える問題では、市の平均正答率を3.7ポイント下回った。	・全体的に、基礎的な知識や技能は定着が不十分である。今後は、めあてを明確にし、仮説を立てて実験を行い、結果をまとめ考察をするという学習を多く取り入れるとともに、実際に観察することが難しい内容については映像資料を活用して学習を補い、具体的な自然現象を想起させながら、知識の定着を図る。

宇都宮市立御幸が原小学校 第5学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○●「家で、自分で計画を立てて勉強している。」の肯定的回答割合は85.2%で市や県の平均を上回った。宿題と予習、復習の実施についても市や県の平均を上回る結果であったが、「決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている。」の肯定的回答割合は44.3%で市や県の平均を下回った。家庭学習強化週間を活用して開始時刻や内容を指導し、自主学習を励行させていきたい。

○●「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる。」の肯定的回答割合は75.4%で市や県の平均を上回った。「授業の中で、目標がしめされている。」も肯定的回答割合は96.7%で、市や県の平均を上回った。しかし、学習したことをふり返る活動の肯定的回答割合は市や県を下回り、「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことはむずかしい。」と感じている児童は72.1%で、市の平均を9.3ポイント上回った。「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である。」の肯定的回答割合は41%で、市の平均を8.5ポイント下回った。以上の結果から、授業を集中して受け、友達と話し合う活動を行っているが、自分の考えをもち、まとめて発表したり書いたりすることを難しいと感じ、苦手意識をもっていることが伺われる。授業の最後のふり返りの時間を大切に扱い、書き方の観点を示し書く習慣を身に付けていきたい。

○●「自分には、よいところがあると思う。」の肯定的回答割合は95.1%、「自分のよさを人のために生かしたいと思う。」は98.4%、「自分がもっている能力を十分に発揮したい。」は98.3%、「だれに対しても、思いやりの心をもってせっている。」は98.4%であった。ここから、本校児童の自己肯定感の高さが伺われる。一方で、「自分の行動や発言に自信をもっている。」の肯定的回答割合は、50.8%で市の平均を11.7ポイント下回り、人のために何かしたい気持ちはあるが、方法や内容ははっきりせずまだ自分に自信がない様子が見て取れる。まずは学級での係や当番活動、委員会活動で自分の役割を自覚し、責任をもって活動することを繰り返し、自信をもたせたい。

●平日のTV・DVD・動画の視聴時間について、2時間～4時間以上との回答は60.6%となっている。このうち16.4%が4時間以上と回答している。また、テレビゲーム(コンピューターゲーム、携帯式ゲーム、スマートフォンを使ったゲーム)を2時間～4時間以上するとの回答は44.3%で、4時間以上と回答しているのは16.4%であった。これらから、平日の多くの時間を費やしていることになる。時間を計画的に使い、睡眠、宿題、自主学習などの時間を十分確保できるよう、家庭と連携しながら指導したい。

宇都宮市立御幸が原小学校 (第4・5学年共通) 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	4月に「家庭学習の手引き」を各家庭に配付し、学年に応じた家庭学習の時間の目安や内容の提示と啓発 5月、1月に「家庭学習強化週間」を実施し宿題や自主学習の習慣化や取り組み方の周知	「家で学校の宿題をしている」の肯定的回答割合は、4年生が93.6%、5年生が98.4%と高かった。また、「家で計画を立てて勉強をしている」の肯定回答割合が、両学年とも市や県の平均を上回った。一方、「家で、決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている。」と答えた児童の割合は、両学年とも市や県の平均を下回った。
主体的に学びに向かう授業のデザイン	見通しをもって粘り強く取り組めるような課題の設定や提示の仕方の工夫 成果や自分の成長、つまずきを実感できるような振り返りの工夫	「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる。」の肯定的回答は4年生では市や県の平均を下回ったが、5年生では上回った。「授業の最後に、学習したことをふり返る活動をよくおこなっている。」の肯定的回答割合は、4・5年生ともに市や県の平均を下回った。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
国語の読むことに関する領域において、4・5年生ともに市の平均を下回った。特に、文章を読んで感じたことや考えたことについて答える問題では、4年生が16.9ポイント、5年生が6.2ポイント下回り、物語の読み取りに課題が見られた。	おすすめの本の紹介	読書月間や長期休みにおける読書を励行し、読んだ本を友達に勧める「この本読んだよ」のプリントを教室や図書室に掲示する。おすすめの本について内容を分かりやすく説明したり、感想を書いたりすることで読む力と書く力の両方を高めていく。